

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

|       |                                                                                 |     |            |  |       |                    |      |             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------|-----|------------|--|-------|--------------------|------|-------------|
| 科目No. | 252                                                                             | 科目名 | 生物総合評価管理学2 |  | サブネーム | 遺伝子組換え生物のリスク評価と管理2 |      |             |
| 共催機関名 |                                                                                 | レベル | 中級         |  | 講義枠   | 水曜日                | 講義時間 | 18:30~20:00 |
| 科目概要  | 生物多様性の保護と遺伝子組み換え技術の登場によって人工的に作られる遺伝子組み換え生物(GMO)のリスク評価の考え方、利用についての議論の展開について概観する。 |     |            |  |       |                    |      |             |

| サブタイトル      | 講義名                          | 講義概要                                                                                                                           | 講義日      | 教室     | 講師名    | 所属                    |
|-------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------|--------|-----------------------|
| 組換え生物のリスク評価 | 1 生物多様性の基本的考え方               | 生物多様性の広い概念について解説する。                                                                                                            | 10月5日    | 1号館205 | 堅尾 和夫  | お茶の水女子大学              |
|             | 2 生物多様性条約、カルタヘナ議定書           | OECDでの議論から生物多様性条約下での論議へ、さらにはUNEPガイドライン、カルタヘナ議定書への議論の流れを開説する。                                                                   | 10月12日   |        | 炭田 精造  | バイオインダストリー協会          |
|             | 3 カルタヘナ議定書及び海外の動き            | 制定の経緯、背景、現在の論点及び日本の国内法や実務との関わりについて解説する。                                                                                        | 10月19日   |        | 渡辺 和男  | 筑波大学                  |
|             | 4 リスク分析の考え方と閉鎖系での審査におけるリスク評価 | リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションの考え方(概観)                                                                                               | 11月5日(土) | 1号館101 | 吉倉 廣   | 国立感染症研究所<br>名誉所員(前所長) |
|             | 5 開放系での審査におけるリスク評価           | 遺伝子組換え微生物の開放系利用に限定し、予め予測しうる組換え微生物の人や動植物等へのリスクの評価(事前評価)、利用過程でのリスクのモニタリングと評価、リスクの管理と利用終了の判断(事後評価)等について、講義する。                     | 11月9日    | 1号館205 | 藤田 正憲  | 大阪大学                  |
|             | 6 開放系での審査におけるリスク評価(農作物)      | カルタヘナ法に基づく第1種使用等について、生物多様性影響評価の考え方、仕組み及び実際の評価内容について講義する。                                                                       | 11月16日   |        | 田部井 豊  | 農業生物資源研究所             |
| 組換え生物の利用と管理 | 7 ゲノム工学を利用したこれからのリスク管理       | 環境中に存在する多彩な病原微生物及び一般細菌を培養法で網羅的に解析するのは実現不可能であるが、蓄積された遺伝情報を使えば、既にわかった微生物の遺伝子を網羅的にモニタリングすることができる。                                 | 11月30日   | 1号館205 | 江崎孝行   | 岐阜大学                  |
|             | 8 バイオテクノロジーと市民とのコミュニケーション    | バイオテクノロジーについて市民にわかりやすく伝えることの重要性や、そのときに何を留意する必要があるかについて、遺伝子組み換え食品や個人遺伝情報保護に関する具体的な事例を挙げて講義する。                                   | 12月14日   |        | 佐々 義子  | くらしとバイオプラザ21          |
|             | 9 地方自治体の反応                   | 地方自治体は、なぜ組換え作物の栽培に対して過剰な反応を示すのか?北海道等の動きとその意味を考える。                                                                              | 12月21日   |        | 富田房男   | 放送大学北海道学習センター所長       |
|             | 10 組換えDNA技術の社会展開             | 組換えDNA技術の実用化、社会への展開、リスク管理、社会とのコミュニケーションを進めるためのビジョンについて、講義する。                                                                   | 1月11日    |        | 山根 精一郎 | 日本モンサント               |
|             | 11 組換えDNA技術と環境問題             | 環境問題への遺伝子組換え技術利用の動きを紹介した上で、環境問題への遺伝子組換え技術利用におけるリスクと安全性評価を議論する。さらに環境問題のリスクと遺伝子組換え技術利用のベネフィットを踏まえた議論において、環境問題への遺伝子組換え技術利用の可能性を考察 | 1月18日    |        | 福田 雅夫  | 長岡技術科学大学              |
|             | 12 組換えDNA技術と食料問題             | 食料確保、そしてその手段は何か?リスクベネフィット<br>今後の食糧問題を概観し、組換えDNA技術がどのように食糧問題の解決に寄与できるかについて講義する。                                                 | 1月25日    |        | 田部井 豊  | 農業生物資源研究所             |
|             | 13 今後の安心と安全問題                | 遺伝子組み換え生物のリスク評価に関する議論の現状と今後の課題について考える。                                                                                         | 2月8日     |        | 堅尾 和夫  | お茶の水女子大学              |